

新聞新賣

夕刊

2005年(平成17年)7月28日 木曜日



円盤を手にする高安社長

含有ミネラルの種類が世界で最も多く、ギネスブックにも掲載された塩が、沖縄県沖の海水から生まれている。製造しているのは、同県うるま市の製塩会社「ベンチャー高安」。世界一の秘密は、社長の高安正勝さん(58)が、独自に開発した製塩法だ。

☆ この塩は「ぬちマース(二命)の塩の意味」を名付けられている。2000年に、世界最多の14種のミネラルを含む塩としてギネスブックに載った。

その後、日本食品分析センターなどに成分を詳しく分析してもらった結果、21種も含まれていることがわかった。塩は高血圧の大敵のはずだが、高安さんによると、ぬちマースを取ると、逆に高血圧が改善する。塩の取り過ぎで血圧が上がるのは、ナトリウム(Na)の作用。だが、ぬちマースに含まれるカリウムがナトリウムを体外に排出させるとい

秘密は瞬間空中結晶製法

うのだ。

☆ 間口10尺、奥行き50尺のビニールハウスが工場。ここに、沖縄本島の東3キロにあり、本島と橋で結ばれている比嘉島から毎日、20トンの海水がトラックで運び込まれる。不純物を取り除き、塩分濃

高血圧改善 世界一の塩

■ 沖縄の「ベンチャー高安」製造

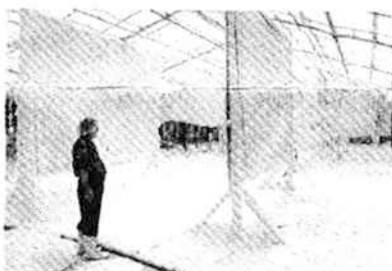
度を2倍にすると、01年に特許を取得した「瞬間空中結晶製塩法」の出番だ。

装置は、直径25センチの金属製の円盤2枚を張り合わせた構造。2枚の間にはすき間があり、うち1枚の中心部に穴が開いている。この穴に海水を吹きつけ、円盤を高速回転させると、海水が空気抵抗によって直径10〜15センチ(1歩は1000分の1センチ)の細かさ



瞬間空中結晶製塩法で作られた製品

21種のミネラル含有



雪景色のような製塩工場内

装置は元もと栽培の際、夏場に高温になり過ぎるビニールハウス内を、霧が蒸発する際の気化熱で冷やそうと思いついたものだった。

しかし、1997年1月、塩の販売が自由化されることを新聞で知り、「装置が使える」とひらめいた。

同年3月に会社を設立。県に事業への協力を要請した。しかし、最初は「そんな方法で塩ができる訳がない」と相手にされなかった。

再三の要請に、ようやく工場を見学してもらった。担当者には塩ができる様子を見た途端、「すばらしい」と称賛。ぬちマースが商品として認められるようになった。

製法を開発し、世界一のお墨付きを得るまでの苦労話は、01年に県内の小学校3年生向けに作られた道徳の副読本でも取り上げられた。

遠望細見

☆ 現在は1日に500キロを製造している。来夏には近くの宮城島に工場を移転し、1日1.5トンを生産する計画だ。250キロ入りで1050円。問い合わせは、ベンチャー高安(0988-97225710)へ。

山本豊